

復興を支える常磐自動車道②

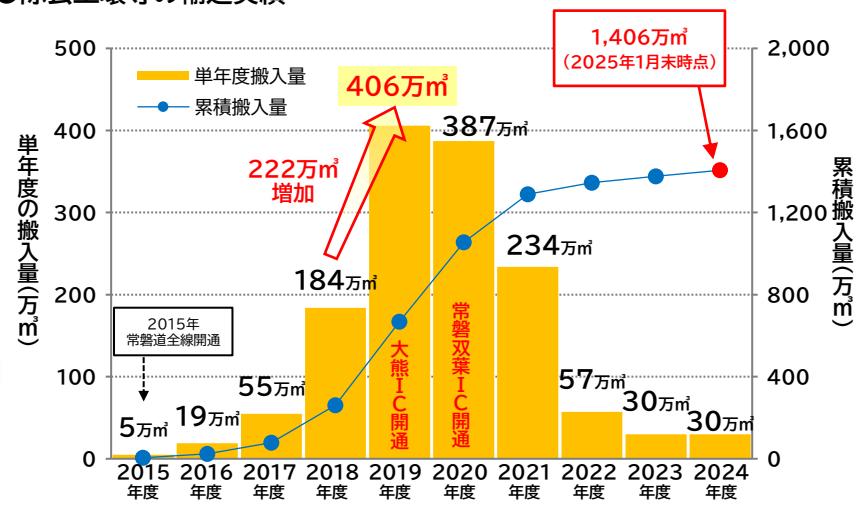
除去土壌等の運搬や廃炉作業促進への貢献

- 復興への支援、除染・中間貯蔵施設事業の加速などを目的に、ならはPA、ならはスマートIC・大熊IC・常磐双葉ICが全線開通後に整備。
- 大熊ICの開通が一助となり、除去土壌等の輸送が加速したこと、**輸送量が222万m³増加し、最大406万m³の運搬に寄与。**

除去土壌等の輸送経路



●除去土壌等の輸送実績



【資料】「中間貯蔵施設への搬入量」環境省(2025年1月末時点)より作成

※端数処理の関係により合計が一致しない場合がある。

※2020年～2022年：新型コロナウイルス感染症対策期間（緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置）が含まれる。

除染・中間貯蔵施設事業の加速

常磐自動車道の「ならはPA」「大熊IC」や磐越自動車道の「差塩PA」「三春PA」駐車場には除去土壌等の運搬車の駐車スペースを設けており、一時待機や車両点検を実施するほか、緊急時にも多く利用されていた。

●駐車場での一時待機の様子



【写真】NEXCO東日本資料、2016年時点



【写真】環境省提供

福島第一原子力発電所事故に伴う廃炉作業の進展

ICの追加整備により、福島第一原子力発電所から高速道路へのアクセスが向上し、作業員や往来者の利便性向上により廃炉作業の進展に寄与。

- 環境省では、2024年現在も南相馬IC～大熊ICの区間を活用し、中間貯蔵施設等への輸送を実施しています。中間貯蔵施設に近接する大熊IC、常磐双葉ICの開通により、除去土壌等の輸送は大きく推進されています。
- 除去土壌等の運搬に寄与しています。
- 特定廃棄物や除去土壌等の運搬に寄与しています。
- 中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送時間が短縮されました。



沿線4自治体の声
ヒアリング結果
(2024年6月～9月)